

農業と福祉がつながって、日本を元気に！



農福連携 関東農政局事例集

(ver.1)

令和元年11月
農林水産省 関東農政局

掲載事例一覧 (関東農政局管内10都県から各1事例選定)

- (1) 株式会社 HATAKEカンパニー (茨城県つくば市) p 4
取組パターン : ①直接就労型、②連携型
- (2) 社会福祉法人パステル (栃木県小山市) p 5
取組パターン : ④福祉完結型
- (3) 社会福祉法人ゆずりは会 (群馬県前橋市) p 6
取組パターン : ④福祉完結型
- (4) NPO法人 No Side (埼玉県深谷市) p 7
取組パターン : ④福祉完結型
- (5) 株式会社 JAL サンライト p 8
取組パターン : ②連携型
- (6) 株式会社 キューピーあい (東京都町田市) p 9
取組パターン : ①直接就労型
- (7) 株式会社 元気もりもり山森農園 (神奈川県三浦市) p 10
取組パターン : ①直接就労型、③グループ内連携型
- (8) 社会福祉法人 ハヶ岳名水会 (山梨県北杜市) p 11
取組パターン : ④福祉完結型
- (9) 社会福祉法人 花工房福祉会 (長野県長野市) p 12
取組パターン : ②連携型、④福祉完結型
- (10) JA 静岡市 (静岡県静岡市) p 13
取組パターン : 中間支援の取組

※本事例集は、既存資料の活用及び関東農政局各都県拠点による団体への聞き取り・現地調査から整理。
※取組パターンは、取組概要等に記載している内容から整理。

事例の読み方

(1) 通し番号

掲載した10事例に、県勢順に通し番号を振っています。

(2) タイトル

取組の特徴に即してタイトルを付けています。

(3) 取組主体

取組主体名を記載しています。なお、障害福祉サービス事業所が関わる取組の場合には、その運営法人と事業所名を併記しています。また、障害福祉サービス事業所が多機能型事業所である場合、() 内に代表的なサービスを記載しています。

(4) 取組パターン

p 3 の分類に従い、取組パターンを記載しています。

(5) 所在地

取組主体が所在する都県及び市町村名を記載しています。

(6) WEBサイト

取組のWEBサイトを記載しています。

(9) リード文

取組の概要とポイントを記載しています。記載内容は、令和元年10月時点のものです。

(10) 取組の内容

取組の内容を記載しています。記載内容は、令和元年10月時点のものです。

(12) 写真

取組の写真に掲載しています。無断転載を禁止いたします。写真を利用したい場合にご相談ください。

1

障害者個々の作業能力や適性を把握しながら障害者の自立を支援

【農業経営体：株式会社 HATAKEカンパニー（茨城県つくば市）】

WEBサイト：<https://hatake.co.jp/company/>

10月時点

- 茨城県つくば市に本社を置く株式会社HATAKEカンパニーは、茨城県を中心に約90haで葉物野菜を栽培している。
- 経営面積等の拡大等で人材不足に悩んでいた平成23年に、近隣の福祉事業所と出会い、「農業の人手不足と障害者の働き場所の確保の両方を解決するために、自社で何が出来るか」を考え、障害者が働きやすい環境を創出し、現在までに、直接雇用4名、近隣の2ヶ所の福祉事業所から施設外就労として10名を受け入れている。（令和元年10月時点）
- 障害者には、選別・パッキングの出荷調整の行程において、適性に合わせた作業に従事してもらうことで業務の効率化を図っている。また、機械による選別ラインでは対応できない少量多様な商品オーダーは、障害者グループがその作業を任せ、対応している。

取組内容・体制

- ◆ 約90haの農地で葉物野菜（ベビーリーフ、リーフレタス、ミニ野菜等）を周年栽培。
- ◆ 障害者が担う、パッキング作業（バック詰め）は、計量の正確性、袋詰めスピード、シール貼付の丁寧さが求められるため、障害者個々の適性にあった作業に配置。
- ◆ 障害者の個性を把握している福祉事業所のスタッフが作業グループを構成・付添い、作業に従事。

取組の工夫・効果

- ◆ 個々の作業能力や適性に合わせた作業工賃を設定することで、障害者の工賃・賃金が増加。
- ◆ 周年での作業を創出することで、障害者を安定的に受け入れるとともに、障害者の適正にあった作業を考慮し、従事してもらうことで業務の効率化を実現。
- ◆ 販売先からの少量多様な商品オーダーを、障害者作業グループに任せると、機械選別ラインでは対応できない少量ロットの対応を実現。
- ◆ 障害者が、一般従業員やパート従業員と共同作業することで、社内のコミュニケーションが向上し、障害者にも働きやすい環境を創造。
- ◆ 将来的には、障害のある人たちが、自立して生活していけるように、農福連携を絡めたグループホームの設立を検討中。

ベビーリーフ



パッキングの様子



4

(7) 報道機関受入れ可否

報道機関による取材の受入れ可否を記載しています。撮影にあたっては、障害者への配慮が必要な場合もありますことに、ご注意ください。

(8) 視察受入れ可否

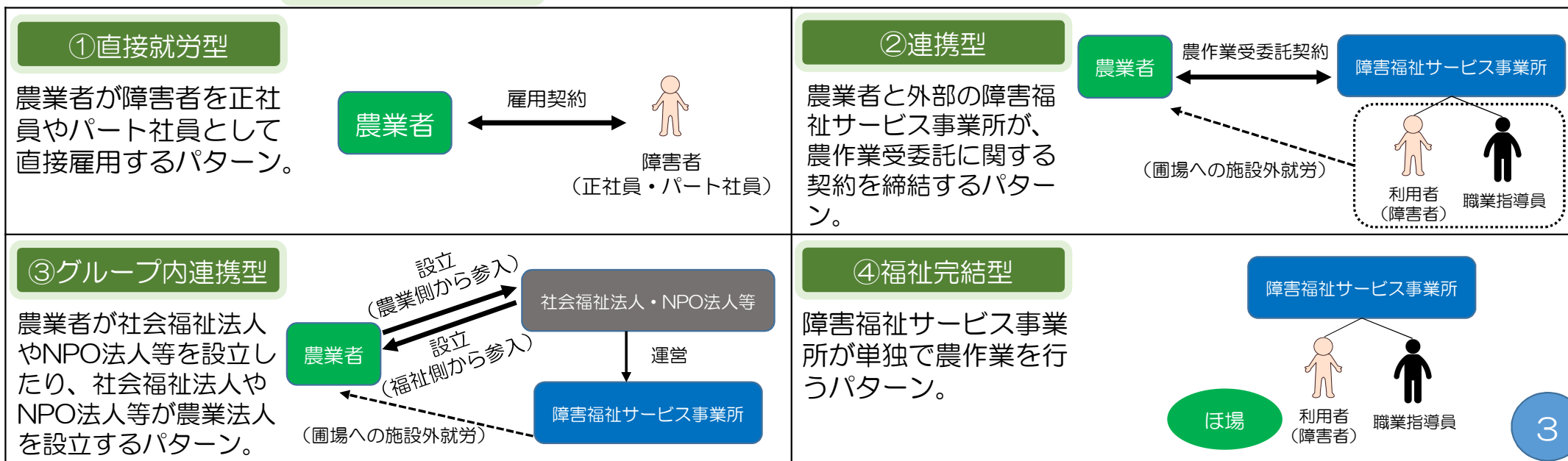
一般の方による視察受入れの可否を記載しています。「可」と記載していても、農作業の繁忙期には視察をお控えいただく場合や、事前申込や料金が必要な場合もありますことに、ご注意ください。

(11) 取組の効果

取組の効果を記載しています。記載内容は、令和元年10月時点のものです。

取組パターンの解説

- 農福連携の取組は、(1) 実際に障害者とともに農作業を行う「**実践行為**」と、(2) 実践行為を行う農業者や障害福祉サービス事業所を外側から支える「**中間支援の取組**」に分類することができます。
- 実践行為については、①農業者が障害者を直接雇用する「**直接就労型**」、②農業者と外部の障害福祉サービス事業所が、農作業受委託に関する契約を締結し、施設利用者（障害者）と職業指導員が農業者の圃場に通う「**連携型**」、③農業者が社会福祉法人やNPO法人等を設立したり、社会福祉法人やNPO法人等が農業法人を設立する「**グループ内連携型**」、④障害福祉サービス事業所が単独で農作業を行う「**福祉完結型**」に分類することができます。
- 障害福祉サービス事業所が敷地内で農作業を行いつつ、外部の農業者の圃場にも通うなど、複数パターンを実施する場合があります。



1 障害者個々の作業能力や適性を把握しながら障害者の自立を支援

〔農業経営体：株式会社 HATAKEカンパニー（茨城県つくば市）〕

WEBサイト：<http://hatake.co.jp/company>

①直接就労型

②連携型

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 茨城県つくば市に本社を置く株式会社HATAKEカンパニーは、茨城県を中心に約90haで葉物野菜を栽培している。
- 経営面積等の拡大等で人材不足に悩んでいた平成23年に、近隣の福祉事業所と出会い、「農業の人手不足と障害者の働き場所の確保の両方を解決するために、自社で何ができるか」を考え、障害者が働きやすい環境を創出し、現在までに、直接雇用4名、近隣の2ヶ所の福祉事業所から施設外就労として10名を受け入れている。
(令和元年10月時点)
- 障害者には、選別・パッキングの出荷調整の行程において、適性に応じた作業に従事してもらうことで業務の効率化を図っている。また、機械による選別ラインでは対処できない少量多種の商品オーダーは、障害者グループがその作業を任せ、対応している。

取組内容・体制

- ◆ 約90haの農地で葉物野菜（ベビーリーフ、リーフレタス、ミニ野菜等）を通年栽培。
- ◆ 障害者が担う、パッキング作業（パック詰め）は、計量の正確性、袋詰めスピード、シール貼付の丁寧さが求められるため、障害者個々の適性にあった作業に配置。
- ◆ 障害者の個性を把握している福祉事業所のスタッフが作業グループを編成・付添い、作業に従事。

取組の工夫・効果

- ◆ 個々の作業能力や適性に応じた作業工賃単価を設定することで、障害者の工賃・賃金が増加。
- ◆ 通年での作業を創出することで、障害者を安定的に受入れるとともに、障害者の適正にあった作業を用意し、従事してもらうことで業務の効率化を実現。
- ◆ 販売先からの少量多種の商品オーダーを、障害者作業グループに任せることで、機械選別ラインでは対処できない少量ロットの対応を実現。
- ◆ 障害者が、一般従業員やパート従業員と共同作業することで、社内のコミュニケーションが向上し、障害者にも働きやすい環境を創造。
- ◆ 将来的には、障害のある人たちが、自立して生活していけるように、農福連携を絡めたグループホームの設立を検討中。

ベビーリーフ



パッキングの様子



2 社会福祉法人による地域伝統産業「桑・養蚕」をテーマとした地域共生

④福祉完結型

〔運営主体：社会福祉法人パステル（栃木県小山市）〕〔事業所：就労継続支援B型事業所CSWおとめ 等〕

WEBサイト：<https://fukushi-pastel.jp/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 栃木県小山市にある社会福祉法人パステルは、栃木、茨城県内7カ所の就労継続支援B型事業所を運営するとともに、平成23年から利用者の情緒育成、自立心の向上、就労機会の提供を目的に、近隣の離農者から農地を借り受け、「お楽しみ農業」として野菜やブルーベリーなどの栽培を開始。
- 小山市が古くから養蚕が盛んであったことに着目し、平成26年から桑の葉を活用した6次産業化商品作りを開始。平成27年から養蚕にも取り組み、地元JA養蚕部会に加入するなど、地域と共生した活動を展開。
- 平成29年に開設した就労継続支援B型事業所（CSWおとめ）にパン工房やレストランを併設し、自社生産した野菜等を原材料とした料理の提供や加工品販売など、障害者が仕事を通じて“生きがい”を再発見。

取組の内容

- ◆ 平成26年から食用桑の栽培を行い、パウダー状に加工した葉を利用したパン、お茶、菓子類、うどん、パスタ、ドレッシング等の6次産業化の取り組みを開始。
- ◆ 平成27年からは、地域の伝統産業である養蚕業にも参入し、JAへ出荷するとともに、施設内で手織物を製造・販売。
- ◆ 施設内に市民も利用できるコミュニティ施設やレストラン、販売所を開設。

取組の効果

- ◆ 近隣の離農者から農地を借り受け、耕作放棄地の解消及び防止に貢献。（80a）
- ◆ 農産物の生産から加工・販売までの工程を細分化することで、障害者（50名）の活躍できる場を拡大。
- ◆ お客様と接することでコミュニケーション能力や社会性の向上が図られ、今までに、一般企業に47名が就労。（平成30年度は3名）
- ◆ 平均月額工賃は、全ての事業所で県平均額を上回る。
※平均月額工賃は栃木県：16,949円（H30年度）、茨城県：13,198円（H29年度）の実績による。
- ◆ コミュニティ施設を一般開放し、地域住民との交流を図ることにより、障害者に対する理解が向上。

桑の栽培



加工施設



開発した商品



3 地元農家と連携して露地栽培に取り組む県内トップクラスの高工賃を実現

④福祉完結型

〔運営主体：社会福祉法人ゆずりは会（群馬県前橋市）〕〔事業所：就労継続支援B型事業所「ゆずりは」〕

WEBサイト：<http://www.yuzurihakai.org/corporate/yuzuriha/index.html>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 群馬県前橋市にある社会福祉法人「ゆずりは会」は平成18年に設立し、現在、前橋市及び高崎市で5カ所の就労継続支援事業所（A型・B型）を運営している。設立当初より農福連携に取り組み、その中の就労継続支援B型事業所「ゆずりは」では、知的障害者26名を受け入れ、通年で作業のできる野菜生産を事業所自ら取り組んでいる。
- 「ゆずりは」は、「ゆずりは会」の他の事業所と共同で、はくさい、えだまめ、たまねぎ、ブロッコリー、ほうれんそう等の栽培、また平成29年度から長ねぎ栽培に取り組むことで、生産から出荷まで年間を通しての作業体系を確立し、JAへ7割を出荷、その他市内学校給食、市場、契約加工業者等へ出荷販売している。

取組の内容

- ◆ 7haの農地（所有地0.1ha、借地6.9ha）で、はくさい、えだまめ、たまねぎ、ブロッコリー、ほうれんそう、長ねぎを栽培。
- ◆ はくさい栽培では、定植・管理の部分を「ゆずりは」が担い、作物の品質を大きく左右する苗作り、および障害者が判断することが困難な作業（白菜の切る部分、葉の取り具合、虫食いの処理などの判断）は、農家等に部分委託することで品質の確保と作業の効率化を実現。
- ◆ えだまめは、障害者が管理・収穫・選別・出荷まで作業が行える作物として導入。9月まで収穫することで高単価と障害者の作業期間を確保。
- ◆ 冬場の作業は、ブロッコリー・ほうれんそうの栽培をしているが、出荷の最終確認・調整は施設職員しかできないため、障害者のみで出荷作業まで行える作物として長ねぎを導入。

取組の効果

- ◆ はくさいの苗作りや収穫作業を農家等に部分委託することで、栽培経費はかかるものの、作業の効率化が図られ、安定出荷を実現。また、他作物の作業に力を入れることができ、全体としては、売上げ増加に貢献。
- ◆ 農家等へ部分委託することで地域との交流・連携を構築。
- ◆ 長ねぎの導入により、年間通じての作業を確保。また、出荷作業（根葉の整理、重量選別、長さ揃え、袋詰め等）を分割しやすい事から、作業工程の中で障害者の適性に合わせて配置することで、障害者個々の力を発揮する作業の流れを確立。
- ◆ 年間を通じた野菜出荷販売により、平成30年度工賃は49,109円/月を実現。（県内最高額）

はくさいの収穫作業



えだまめの選別作業



ねぎの選別作業



〔運営主体：NPO法人 No Side（埼玉県深谷市）〕〔事業所：就労継続支援B型事業所 No Side〕

WEBサイト：－

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 埼玉県深谷市で就労継続支援B型事業所を運営するNPO法人「No Side」は、平成26年から「埼玉県農業参入チャレンジ事業（3カ年事業）」により地域の遊休農地を借り受けて農業に参入。重度の障害者の利用が多い事業所でありながら、現在、1.5haの畑で たまねぎ を栽培し、主に大手飲食チェーン店や市場に販売・出荷している。
- 同事業所では、現在52名の障害者が利用しており、「利用者が毎日楽しく働ける場の提供」を施設の運営方針に掲げ、農作業班のほか、食品班、レザークラフト班、ビーズ班及び内職班の5つの作業班を設け、本人の意思を尊重した上で適材適所を見極め、日々、各班の異なった作業に関われるようにしている。

取組の内容

- ◆ 「埼玉県農業参入チャレンジ事業」を活用し、生産資材及び栽培技術指導の支援を受け、たまねぎ栽培を開始。
- ◆ 農薬を使用せず、障害者が協力しあって、手作業で除草を実施。また、収穫物等を入れるコンテナの運搬も必ず複数で運ぶなど、共同作業に重点を置いて実施。
- ◆ 障害者に農機具は操作できないという先入観を持たず、職員が安全チェックなどを徹底することで、管理機によるマルチ敷設などの作業にも従事。
- ◆ 収穫した たまねぎの一部を、施設内の食事や食品班が製造する惣菜パンにも使用。また、収穫物を無駄にしない試みとして6次化も視野に入れ、現在、たまねぎをペースト状に加工した商品の開発に着手。

取組の効果

- ◆ 栽培技術指導により、たまねぎの単収は3～3.7t/10aと県平均単収と同等の収量を実現。
- ◆ 除草等を手作業で行い、作業の始めと終わりの違いが一目で分かることで達成感が得られるとともに、障害の重度に応じて分割した作業を共同で行うことで必要とされる喜びや自信を感じるとともに協調性を習得。
- ◆ 自ら育てたたまねぎを食べることで、収穫の喜びに加え「食」のありがたみを実感。また、6次化に取り組むことで、規格外品などの無駄がなくなり、雨天時などの作業確保や収益の安定にも期待。

手作業での除草



共同作業の様子（運搬・定植・栽培管理）



5 安定的な労働力の提供と障害者の活躍の場を広げる農福連携の形

②連携型

〔特例子会社：株式会社JALサンライト〕〔受託先：有限会社GFK及びパセリ生産農家（千葉県旭市）〕

WEBサイト：<https://www.jal.co.jp/jsl/>

視察受入れ：可 報道機関受入れ：可

- 東京都品川区に本社ある株式会社JALサンライトは、日本航空（JAL）のシェアードサービスセンターとして、給与計算や福利厚生、収入管理及び事務補助業務等を担う特例子会社である。平成29年から新たなチャレンジとして、千葉県旭市における（有）GFK（サンチュを生産する農業法人）と連携した農作業の請負業務を開始し、障害者の活躍の場を広げている。
- GFKでは、特例子会社へ作業委託することで安定的な労働力が確保できたことにより、日々の作業計画が策定しやすくなり、効率の良い作業分担が可能となっている。
- 6名の障害者社員が、農業指導者（社員）2名のサポートのもと、受託先農業経営体にて農作業に従事している。

取組の内容

- ◆ 障害者は、千葉県旭市にある委託先の（有）GFKとパセリ生産農家にて、主に軽作業（サンチュやハーブ等の水耕での植え付け、資材洗浄、パセリの露地での収穫、パック詰めや搬送業務等）に従事。
- ◆ 請負作業時には、農業指導者が同行し、障害者と農業者や業務を共にするパートタイマーとの仲介役として間に入り、障害者が請負う業務を理解し、障害者が取り組みやすいように作業内容を管理・指導。

取組の効果

- ◆ 作業の習熟には若干時間が掛かることもあるが、熟練することにより、農業現場の労働力不足解消に貢献。
- ◆ 労働力を安定的に確保することができ、生産現場の作業計画の策定が容易となり、パートタイマーの作業負担も軽減。 休暇の取得など農業法人内の就業環境も改善。
- ◆ 農業指導者が、障害者個々の特性等を理解しながら指導することで、障害者は目に見える成果が得られ、作業に対するモチベーションが向上。
- ◆ 障害者による農作業の正確さや取組む姿勢が、近隣の農業者からも評価され、新たな契約につながっており就労機会が向上。

水耕栽培の資材洗浄



パセリの収穫作業



6 農地バンクの農地を活用して農福連携

①直接就労型

〔特例子会社：株式会社キューピーあい（東京都町田市）〕

WEBサイト：<https://www.kewpie-ai.co.jp/>

視察受入れ：不可

報道機関受入れ：不可

- 東京都町田市にある「株式会社キューピーあい」は、平成15年にキューピー株式会社の特例子会社として認可を受け、ユニフォームレンタル業務、発送業務、印刷業務、リラクゼーション業務、清掃業務事業及び農業などの事業を行っている。
- 農業分野への事業拡大に際しては、町田市の農業研修を受講するとともに、同市の「農地利用集積円滑化事業」を活用し、農地を借り受け、平成25年度から障害者が通年で露地野菜の生産・販売を行っている。
- 取組開始以来、借受農地は当初5,228㎡から約8,000㎡にまで拡大、少量多品目栽培にて通年で障害者雇用を創出するとともに、認定新規就農者として認定され、町田市の農業振興に寄与している。

取組の内容

- ◆ 平成25年より農業分野へ参入。参入に際しては、平成23年から2ヶ年、町田市の農業研修に参加し、研修後に農地利用集積円滑化事業を活用し、5,228㎡の農地を借り受け。
- ◆ 6名（障害者2名、健常者4名）のスタッフにて運営し、現在、面積を約8,000㎡まで拡大。
- ◆ ほうれんそう、キャベツ、はくさい等の露地野菜を少量多品目栽培（年間約70品目）。近隣の食品スーパーでの販売やキューピーグループの従業員向けに定期販売を実施。
- ◆ 農作業に関しては、障害者の特性に合わせ作業を分解し、それぞれの適正を考慮して担当作業を決定。一日の作業予定の確認、全員ミーティング等、コミュニケーションの重視により、農作業の不安要素を排除。

取組の効果

- ◆ 平成27年には、生産する農産物が、町田市産農産物ブランド「まち☆ベジ」として認定。
- ◆ 平成28年には同社が認定新規就農者として認定され、新たに農地を借り受けるなど農業振興に寄与。
- ◆ 障害特性に応じた農作業に従事することで、身体面及び精神面に好影響。
- ◆ 今後、効率的な経営を行うため、近隣農家の技術的アドバイスを得ながら栽培品目の絞り込みや、品質向上・収量増加などについて検討。

圃場全景と作業の様子



食品スーパーでの販売



7 農業法人と就労継続支援B型の連携による生産性の安定

①直接就労型

③グループ内連携型

〔農業経営体：（株）元気もりもり山森農園（神奈川県三浦市）〕〔連携事業所：就労継続支援B型事業所 虹の橋〕

WEBサイト：<http://farm-yamamori.com/>

視察受入れ：不可 報道機関受入れ：不可

- 神奈川県三浦市にある「(株)元気もりもり山森農園」は、障害者1名を正社員として雇用すると共に、同農園の役員が代表を勤める就労継続支援B型事業所「虹の橋」から、作業内容に応じて5名～10名/日を施設外就労として受け入れ、グループ内連携型による農福連携を実施している。
- 障害者の特性を踏まえ、作業を行いやすい生産品目及び通年で収穫作業等が必要となるように多品目の野菜の作付を実施。また、にんじんジュースへの加工・販売も行うことで、生産性と障害者雇用の安定の確保を図っている。

取組の内容

- ◆ 同農園の役員が代表を勤める就労継続支援B型事業所と作業受委託の契約を結び、収穫作業等を委託。
- ◆ 障害者が作業を行いやすい観点から、収穫の際に大きさや形状等の判断を要しない作物及び機械や包丁を使わない作物としてにんじん・たまねぎ・葉物等を主要品目として栽培。
- ◆ 障害者が通年で収穫作業等ができるように作付けを工夫。その一環として、新たに菌床しいたけの導入を予定。
- ◆ 農作業での事故、怪我を防ぐ観点からGAPに取り組み、ASIAGAP認証を取得。

取組の効果

- ◆ 農福連携に取り組むことより、「社員の教育」「クラウド会計」「新しい品目の導入」「販売促進」等、経営者としての仕事に専念する時間の確保を実現。
- ◆ GAP取得により、農作業中における障害者の安全確認が確実に出来るようになり、事故のリスクが減少。
- ◆ 通年で栽培できる作物を加えることにより、障害者雇用の安定と経営の向上の相乗効果を発現。

育苗ハウス



にんじんジュース



山森農園 社員



たまねぎの選別



8 特色ある農産物や加工品等を生産し、地域社会での活躍を目指す

④福祉完結型

〔運営主体：社会福祉法人 八ヶ岳名水会〕〔事業所：多機能型事業所「春の陽（はるのひ）」（山梨県北杜市）〕

WEBサイト：<http://www.y-meisui.or.jp/>

視察受入れ：可 報道機関受入れ：要相談

- 山梨県北杜市にある多機能型事業所「春の陽」は、平成4年に設立した社会福祉法人「八ヶ岳名水会」の通所事業所として平成17年に開設。約40名が、施設の所有及び近隣農家から借り受けた農地で農作業を行っている。
- 地域の農業者に指導を受け、米、小麦、大豆やにんじん等の根菜類を主品目とした野菜の生産と加工・販売を行っている。また、季節に応じた葉物や果菜類の少量多品目栽培にも取り組んでいる。作物は全て農薬、化学肥料を使わずに栽培し、市場でも受け入れられるような確かな品質と生産量を確保している。
- 高齢化等で近隣の管理しきれなくなった田畑の管理に加え、農業用水路の清掃などにも参加し、地域の方々と触れ合い、共に農作業を行っている。

取組の内容

- ◆ 地域の農家にアドバイスを受け、ニーズがあって重度者でも扱いやすいにんじんを栽培。
- ◆ 就労継続B型及び生活訓練者を中心に作業を行っているが、収穫や運搬、洗浄の作業は生活介護の重度障害者の方も参加できるように方法を工夫。
- ◆ 水田の水路清掃など地域の共同作業に参加するとともに、田植え、収穫の際にイベントを開催し、地域の方と共に作業を実施。

取組の効果

- ◆ にんじん栽培のアドバイスを受けたことで、学校給食の基準にも適合した品質と生産量を確保。
- ◆ 土中での保存も可能なにんじんを栽培することで、作業が少なくなる冬場の仕事を確保。また、簡易・安価な にんじん洗浄機を導入することで作業効率のアップと、重度障害者が洗浄作業へ参画することを実現。
- ◆ 高齢化により、地域で管理できなくなった田畑を借り受け、現在は3haを管理。地域農業のために福祉が果たす役割の認知度が向上。
- ◆ 地域住民と共同作業を実施し、互いを理解することで、障害者が地域の一員となる足掛かりを構築。
- ◆ 平均月額工賃は約1.3万円を確保（平成30年度）

にんじん マルチ張り



にんじん収穫後



収穫祭



9 新たな挑戦！地域住民と林福連携の取組みで里山保全

②連携型

④福祉完結型

〔運営主体：社会福祉法人 花工房福祉会（長野県長野市）〕〔事業所 多機能型事業所エコーンファミリー（川中事業所・朝陽事業所）
就労継続支援B型事業所わくワーク及び炭房ゆるくら

WEBサイト：<http://www.hanakobo-hukushikai.jp/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 長野県長野市にある社会福祉法人花工房福祉会の多機能型事業所エコーンファミリー外2事業所では、平成25年より、農福連携に取り組んでいる。事業所の利用者40名は、施設外就労として地域の農家の収穫作業や、農産物の加工・販売などの作業に従事している。
- 遊休農地を活用し、自ら栽培した大豆を醤油会社に醸造を委託、醤油に加工し販売している。
- 就労継続支援B型事業所「炭房ゆるくら」では、平成30年から長野県森林づくり県民税を活用した取組「里山整備利用地域」の活動主体「里山整備利用推進協議会」に参画し、地域住民と連携して里山整備を進める中で発生した伐採木を薪や炭などにして販売している。

取組の内容

- ◆ 地域の農家から受託する農作業に加え、遊休農地を借り受け、ニンニクや大豆を自ら栽培。大豆生産では、障害者理解と食育を兼ね、地域の農家や小学校、醤油会社と連携して醤油に加工し、販売。
- ◆ 農家からの作業要望には可能な限り応えるとともに、出荷規格に合わない農産物は、お菓子などに加工し、販売。
- ◆ 長野県森林づくり県民税を活用した取組「里山整備利用推進協議会」に参画。地域住民と連携し、地域の里山整備に取り組むとともに、整備の際に発生する伐採木を薪や炭などにして販売。里山保全の一翼を担う。

取組の効果

- ◆ 福祉施設だけでなく、農業や林業など異業種と連携し、特色ある新たな事業を展開。
- ◆ 様々な農作業を請け負うことで、受託件数は増え、平成30年度、県平均工賃1万6千円の約2.5倍の工賃※を実現。 ※事業所毎に異なる。
- ◆ 林福連携に取り組むことで、工賃向上に加え、地域住民との交流や里山保全にも貢献。
- ◆ 農家等から感謝されることで、障害者自身が農作業などに対して、自信とやりがいを自覚。

小学生との大豆収穫作業



独自ブレンドのお醤油

伐採木の搬出作業



薪の結束作業

〔運営主体：JA静岡市（静岡県静岡市）〕 〔連携事業所：就労継続支援B型事業所「ALKU」及び「グリーンワークス・リラ」〕

WEBサイト：http://ja-shizuokashi.org/jacms/wp-content/uploads/2018/03/20180320_about.pdf

視察受入れ：可 報道機関受入れ：可

- JA静岡市では、新たな担い手対策として、人手不足の解消と地域住民の就労の機会を確保できるよう、平成30年から、インターネットに農業に特化した求人情報を掲載し、本店内に無料職業紹介所を開設している。
- 同JAは、農家からの求人依頼に応えるよう作業内容等を確認。また、求職者の労働条件や健康状態の確認等を行い、求人・求職者の両者にきめ細かく対応することで、お互いの条件に合う作業のマッチングを実施している。
- 作業の委託先である障害者就労継続支援事業所と連携し、農福連携を支援している。

取組の内容

- ◆ 農家からの求人依頼については、労働条件や作業内容を写真などで出来るだけ具体化して求職者に提示しマッチングを実施。
- ◆ 求職者の確保が困難だった農業者に、JAが就労継続支援事業所への作業委託を提案。
- ◆ 農業者、就労継続支援事業所、JAで話し合いを行い、就労継続支援事業所の職員がジョブトレーナーとして農家の元で委託作業内容の研修を受けた上で、業務委託契約を締結し、作業に着手。
- ◆ ねぎの出荷調製作業に2ヶ所の就労継続支援B型事業所（ALKU、グリーンワークス・リラ）と、農家のマッチングを実施。

取組の効果

- ◆ ジョブトレーナーが農家の元で研修を受け、受託作業を把握し、適切な作業への細分化や写真等による「見える化」を行う事で効率的に作業。
- ◆ 農家からは、「障害者との信頼関係が農業のやりがいに繋がっている」、「規模拡大への後押しになった」、「JAが仲介するという利用への安心感が大きい」という意見。
- ◆ 事業所からは、仕事として食べ物を扱うということが、社会とのつながりがイメージしやすくなり、「障害者の自信や、やりがいを醸成している」との意見。

ネギの選定作業

